

氏名	山 下 元 司
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	甲 第 524 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和57年 3 月31日
学 位 授 与 の 要 件	医学研究科内科系神経精神医学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学 位 論 文 題 目	側坐核と辺縁系発作——燃え上がり現象を用いた研究
論 文 審 査 委 員	教授 森 昭胤 教授 庄盛敏廉 教授 大田原 俊輔

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

側頭葉てんかん患者に精神分裂病様状態が出現することが知られている。そこで側頭葉てんかんモデルである辺縁系キンドリングネコを用いて、辺縁系発作と分裂病様状態との関連が推測されている側坐核との間の相互関係を調べるために、辺縁系発作の反復に伴う側坐核の機能変化、側坐核キンドリング、および側坐核破壊が辺縁系発作に及ぼす影響の3点について実験を行なった。

結果は以下のごとくである。1.扁桃核キンドリングにより側坐核にてんかん原性焦点の形成と同時に陽性転移現象が認められた。2.側坐核でもキンドリングが完成され、その発展様式および発作症状はこれまでに報告されているものの中では扁桃核のそれに類似していた。キンドリングに伴ない扁桃核と海馬に陽性転移現象が認められた。3.側坐核の破壊は扁桃核キンドリングの発展に影響を与えなかったが完成したキンドリングで後発射閾値の低下を認めた。以上から側坐核と辺縁系との密接な相互関係および側坐核の辺縁系発作発現に対する抑制的関与が明らかとなった。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は辺縁系キンドリングネコを用いて、辺縁系発作と分裂病様状態との関連が推測されている側坐核との間の相互関係を明らかにしたもので、側頭葉てんかんの病態解明上重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。